

情報活用の実践力

平成14年6月文科省の資料『情報教育の実践と学校の情報化～新「情報教育に関する手引」～』では、初等中等教育における情報教育を、次の三つに大きく分けて説明しています。

- ・情報活用の実践力
- ・情報の科学的な理解
- ・情報社会に参画する態度

この中で、特に小学校では、『情報活用の実践力』に力を入れることが謳われています。これは、

「課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力」というように説明されています。また、以下の一文もあります。

「小学校段階では、各教科間の関連を図った取組が行われやすいという特色を生かし、各教科等の具体的、体験的活動の中で「情報活用の実践力」の育成を図ることを基本とし、子どもたちが情報手段に慣れ親しみ、適切に活用する学習活動を充実することとしている。」

(同資料 序章 より)

これからもわかるように、「情報教育」というのは、パソコンを使うことと同じではなく、パソコンを習う、というのは、この中の「情報手段に慣れ親しむ」ことの一部でしかないのです。

鉛筆の持ち方や、辞書の引き方と同じで、使い方がわかっただけでは活用できません。道具として使う場面をたくさん経験してこそ、よりよい道具として使えることを学んでいけます。

パソコン室でスキルを身につける授業は、「情報活用の実践力」のうち、「目的に沿って情報を作る」こと、「相手を意識した情報発信のための作品作り」を主に考えられています。

パソコンは、情報を扱う道具として、たいへん豊富な機能を持っています。ともすると、その豊富な機能ゆえに、危険な使い方をしてしまう可能性もあります。小学校では、「情報活用の実践力」だけでなく、「情報社会に参画する態度」も考慮して、授業を考えていく必要があります。この授業は、パソコンを使って行う授業ではなく、全ての教科で取り扱うことができることを、今一度考えてみたいと思います。

資料は、印刷したものが職員室の棚にあります。また、以下からも参照できます。(pdf)

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/020706.htm